

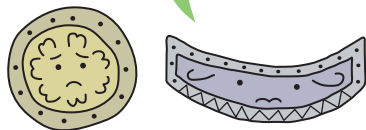
(7) 最後の行幸

770年

(神護景雲四年) 2～3月

えっ? 最後って…

西京は完成してたのですか?



由義宮や由義寺の工事が行われ、
都のシンボルとなる塔は
できあがったようなんだけど…



称徳天皇の3回目の行幸は、770年の2月～3月にかけて39日間の長期に及び、西京をた
たえる歌垣が行われ、由義寺の塔の建設にたずさわった人々に位を与えるなど、建設が進ん
でいたことがわかります。

ゆぎ

由義神社と 2つの弓削神社

八尾市八尾木北5丁目にある由義神社の境内には、由義
宮跡の石碑があります。神社の場所はこれまでの研究で
由義宮の北端の辺りに位置していると考えられています。

その他に、八尾市内には式内社の弓削神社が、旧若江
郡東弓削村（東弓削1丁目）と旧志紀郡弓削村（弓削町
1丁目）にあります。



由義神社の「由義宮跡」の石碑

西京をたたえる歌垣

「歌垣」は、川のほとりや市で男女が集まり、互いに歌を掛け合う
行事でしたが、この時期には宮廷儀礼のひとつになっています。西京
でも、葛井氏・船氏・津氏・文氏・武生氏・蔵氏の六氏の渡来系氏族
の男女230人もの人々が参加した「歌垣」がおこなわれました。

右のページの歌は、西京をたたえたもので、聖武天皇が平城宮の正門・朱雀門
の前で歌垣をおこなった例もあり、同じように「由義宮」でおこなわれたと考える
ことができます。また、参加した男女が現在の羽曳野市や藤井寺市の南河内を
本拠地とした氏族であることから、博多川の名に近い「伯太」という地名が残る
石川（大和川の支流）のほとりでおこなわれたとの説もあります。



由義宮で行われた歌垣のイメージ(早川和子氏画)

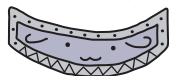
淵も瀬もよく澄んで、
清く爽やかな博多川は
いつまでも清流で
あり続けるであろう

淵も瀬も 清く英けし 博多川
千歳を待ちて 澄める川かも

乙女らに男が立ち添って、
足を踏みならして歌う
この西京の由義宮は、
永遠に栄える都であるよ

少女らに 男立ち添ひ 踏みならす
西の都は 万世の宮

歌垣か～
いろんな恋が
うまれたので
しょうね～



そうか～残念やな～
完成した西京を
称徳天皇にも
見てほしかったよな～



しかし、体調を崩した天皇は、塔の完成をみた翌日に平城宮にもどり、その5ヶ月後の8月に亡くなってしまいます。この3回目の行幸が最後となり、再び八尾の地に来ることはありませんでした。西京の建設は、天皇が亡くなったことで中止され、10ヶ月あまりの短い都となってしまいました。